

起業体験学習「株式会社 黒潮」 ～人とのつながりを大切に活動を通して～

(総授業時数：33時間)

実施学年、教科など

第3学年 総合的な学習の時間

単元(題材)の目標

- ① 社会とかかわる
自らが生活する地域社会において、起業体験学習で「株式会社黒潮」を設立、運営することを通して、社会の中で得る勤労体験の尊さや金銭感覚を学び、自己の今後の生き方、進路選択に活かしていく。
- ② 自分をつくる
自らが起業体験学習「株式会社黒潮」の社員として働くことを通して、自分の考えを実践していく力を養い、仲間と協働していく中で、自分の生き方を明確に捉え、自己の進路選択に反映させていく。

学習の評価

- ① 将来設計能力
起業体験学習「株式会社黒潮」の企画、準備、設立、運営などに見通しをもって取り組み、金銭の尊さや勤労の意義を考え、将来の自分の姿を描くことができる。
- ② 課題遂行力・自己洞察力
起業体験学習「株式会社黒潮」を運営していく上で課題が何であるかを把握し、自らが設定する課題を追究することができる。また、自分と社会との結びつきを理解し、自分の生き方を考えることができる。
- ③ 対人調整能力
起業体験学習「株式会社黒潮」で各学級が運営する「模擬店」での物品販売を通して、様々な人との交流を積極的に行い、協働的に作業を行うことができる。また、「株式会社黒潮」の社員として互いに働く中で、その人なりの良さを理解するとともに自分自身の特徴や良さを理解することができる。
- ④ プレゼンテーション能力
起業体験学習「株式会社黒潮」の株主総会で保護者を対象に各学級が運営する「模擬店」の広告(コマーシャル)を作成したり、学習発表会での看板作成や商品を紹介することを通して、対象とする相手に伝えるために効果的な表現を考えたり、適切な表現方法を選択することができる。

展開の特色

- ① 本単元は学習指導要領に即して、起業体験学習を通して社会の中で得る勤労体験の尊さや金銭感覚を学び、自己の生き方を考え、自己の進路選択に活かしていくことを目指して構成した。
- ② 授業内容は、生徒自らが起業体験学習で「株式会社黒潮」の企画、設立、運営を行い、学習発表会で各学級が運営する「模擬店」での商品販売、収支計画、収支報告を中心に金銭感覚を養うことを目指している。
- ③ 単元の流れは、起業体験学習での「株式会社黒潮」の運営を中心に進めているが、キャリア教育の視点から「生き方指導」に力点を置いて、カリキュラム開発を行っている。

入門ガイド

小学校における入門ガイド

中学校(社会)における入門ガイド

中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例

幼稚園における実践事例

小学校における実践事例

中学校における実践事例

3年

高等学校における実践事例

資料

金融教育に関する年間指導計画の例

資料

指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動
1 ～ 10	<p>起業体験学習とは？</p> <p>・「株式会社黒潮」設立に必要なお金はいくら？</p>	<p>○起業体験学習「株式会社黒潮」の企画、準備、設立、運営</p> <p>・生徒自らが運営する起業体験学習「株式会社黒潮」の経営計画を通して、株式の仕組みや勤労の意義を考えさせ、自己の生き方に反映させていく。</p>
11 ～ 18 (本時)	<p>学習発表会を成功させるためには？</p> <p>・各学級で出店した「模擬店」の収支はいくら？</p>	<p>○起業体験学習「株式会社黒潮」の株主総会の企画、準備、設立、運営</p> <p>・保護者を対象とした起業体験学習「株式会社黒潮」の株主総会の運営計画を通して、実際の販売計画を保護者にコマーシャルとして示し、金銭の尊さや意義を自己の生き方に取り入れていく。</p> <p>○起業体験学習「株式会社黒潮」の学習発表会での販売</p> <p>・各学級で運営する「模擬店」での勤労体験を通して、他者とのかわりの中で金銭感覚を学び、自己の生き方を振り返っていく。</p>
19	<p>起業体験学習で学んだことは？</p> <p>・「株式会社黒潮」の利益はいくら？</p>	<p>○起業体験学習「株式会社黒潮」第2回株主総会における収支報告、株主への配当決算</p> <p>・起業体験学習「株式会社黒潮」の事後指導を通して、起業体験学習の事後学習レポートをまとめる中で収支報告、配当金の分配を行う。また、今までの学習を振り返り、自己の生き方を進路選択に活かしていく。</p>
20 ～ 33	<p>起業体験学習から考える自分の生き方とは？</p> <p>・自分の生涯生活設計に必要なお金はいくら？</p>	<p>○起業体験学習「株式会社黒潮」の体験を活かした生涯生活設計の計画</p> <p>・起業体験学習「株式会社黒潮」での勤労体験や協働作業を通して、他者とのかわりの中で自己を振り返り、自己の生涯生活設計を立て、自己の生き方、進路選択に反映させていく。</p>

金融教育の視点

指導上の留意点

その他(資料など)

<p>◇起業体験学習「株式会社黒潮」設立のために、必要な資金を調達・運用する経営計画を立て、起業体験学習の目的や株式の仕組みを認識する。</p> <p>◇生徒自らが運営する「株式会社黒潮」で、各学級が出店する「模擬店」の販売計画を立てる。</p>	<p>☆学習発表会までに「株式会社黒潮」の収支計画を立て、各学級で出店する「模擬店」の必要経費を、事前に調査しておくようにする。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・「店舗販売計画書」</p> <p>資料 No.1 (→P.145)</p>
<p>◇起業体験学習「株式会社黒潮」の株主総会の開催のために、各学級ごとに「模擬店」の販売計画を立て、保護者に広告(コマーシャル)として提示する。</p> <p>◇起業体験学習「株式会社黒潮」の学習発表会で、学級ごとに「模擬店」を出店し、その収支報告を行う。</p>	<p>☆「株式会社黒潮」の株主総会で提示するコマーシャルのビデオを、学級ごとに作成する。</p> <p>☆学習発表会に向けて、学級ごとに「模擬店」の看板制作係、材料調達係、調理係、接客係、会計係などを決め、準備を行う。</p> <p>☆学習発表会で、学級ごとに模擬店を運営する。</p> <p>☆学習発表会后、学級ごとに収支報告を行う。</p>	<p>・「収支計画書」</p> <p>資料 No.2 (→P.146)</p> <p>・「販売会計報告書」</p>
<p>◇起業体験学習「株式会社黒潮」の学習発表会における各学級の「模擬店」の収支報告を受け、「株式会社黒潮」の利益を計算し、保護者を含めた株主に配当金の分配を行う。</p>	<p>☆事前に立てた収支計画との差から、学習発表会での反省点を検討し、収支報告を作成する。</p>	<p>・「決算報告書」</p> <p>資料 No.3 (→P.147)</p> <p>・「事後学習レポート」における生徒の感想</p> <p>資料 No.4 (→P.150)</p>
<p>◇起業体験学習「株式会社黒潮」の体験をもとにして、生徒が自己の生き方を設計する。</p>	<p>☆起業体験学習「株式会社黒潮」の学習発表会の体験を活かして、生徒が生涯生活設計表を作成する。</p>	<p>・「生涯生活設計表(記入例)」</p> <p>資料 No.5 (→P.148)</p> <p>・「生涯生活設計表」</p> <p>ワークシート (→P.149)</p>

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における実践事例
中学校における3学年の実践事例
高等学校における実践事例

資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における実践事例
中学校における3学年の実践事例
高等学校における実践事例

資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料

実践の記録

起業体験学習「株式会社黒潮」は、3年生の代表者を株式会社の社長、生徒を社員として「株式会社」を設立、運営していく中で、保護者から資金を募り、得た資金をクラスごとに店を出す店の資金に当て、商品の仕入れ、加工、販売をすべて自分たちで行い、利益を株主に配当することを内容として構成している。この学習は、金銭の流れを通して会社そのものの理解を図ることや、各学級の「模擬店」の運営を、クラス全員が協同で取り組む活動として計画したものであり、ダイナミックな学習として展開されていった。

「模擬店」は、3年1組「クレープ店」、2組「焼きそば店」、3組「フランクフルト店」、4組「お好み焼き店」、5組「ホットサンド店」、6組「コロッケ店」、7組「おでん店」として出店することとした。生徒たちは赤字を出さないことを念頭に置き、資料1(P.145)の店舗販売計画書を作成し、各自の役割を全うするために様々な知恵を出し合い、体験を通して学習していった。

そして、平成17年9月16日(金)に保護者を対象として株主総会を開き、1株500円(一人上限20株)として資金を募った。株主総会では、各学級が商品の宣伝をコマーシャルにしてビデオで流し、実際に食品を作り入口に展示した。その事前準備の費用は研究費として計上した。株主総会后に、株券販売とともに各店舗の予約券を販売し、資料2(P.146)の収支計画書を作成した。資料2にある「本部・警備・整理」の費用は、「株式会社黒潮」の宣伝費用(看板、コマーシャルなど)、会社警備・場内整理の費用として計上し、収支を計画した。株券は1,221株が販売され約60万円の資金が調達された。

10月15日の学習発表会当日は、各クラスの「模擬店」のほか、2部店舗として一般の業者も出店し、「豚汁、とうもろこし、金魚すくい、わたがし、くじ、和菓子、おにぎり、ケーキ」を販売し、その利益は、会場使用料と生徒たちの取り組みへの協賛金として、「株式会社黒潮」の利益に組み入れさせてもらうこととなった。同学習発表会の後、各店舗が販売会計報告書を作成し、収支を計算した。その結果、資料3(P.147)の決算報告書にあるように、総収入と総支出の差額が約23万円となり、利益の80%を生徒の基本給に当て、残り20%を株式配当とし、1株あたり37円の配当が可能となった。決算は、平成17年11月11日(金)の第2回株主総会で報告され、承認を得た。

このように各クラスが「株式会社黒潮」の支店として「模擬店」を経営し、利益を追求するという活動を通して、生徒たちは流通や会社の仕組みという概念を習得していくと同時に、適切な勤労観や職業観を育成していき、資料5(P.148)の生涯生活設計表を作成していった。「起業体験学習」を通して、資料4(P.150)の事後学習レポートにおける生徒の感想にもあるように、「将来設計能力」、「課題遂行力及び自己洞察力」、「対人調整能力」、「プレゼンテーション能力」が多くの生徒に着実に育まれてきたといえる。評価に用いた資料は一部の生徒を対象とした調査ではあるが、概ね目標を達成してきていると捉えている。一方、課題としては生徒を対象とした効果的な評価方法を確立することや、「ワークシート」、「プレゼンテーション資料」など、生徒の作品をデジタル化して保存していくことが挙げられる。これらを充実することで、生徒一人ひとりがいつでも、どこでも、他者の学びに触れることができ、自分自身の学びを内省できる「起業体験学習」の学習環境を構築していくことを目指したい。

起業体験学習「株式会社黒潮」の学習発表会の様子(平成17年10月15日実施)



資料 No.1 「店舗販売計画書」

株式会社黒潮
平成17年度 店舗販売計画書

	販売計画	仕入計画	利潤予定額	
1組	164,000	75,922	88,078	クレープ、唐揚げ
2組	94,100	56,726	37,374	焼きそば、焼きうどん
3組	125,000	66,375	58,625	フランクフルト、ポップコーン
4組	102,200	60,385	41,815	お好み焼き、大学芋、スイートポテト
5組	143,000	72,642	70,358	ホットサンド、サンドイッチ
6組	44,000	25,419	18,581	コロッケ
7組	177,000	120,800	56,200	おでん
豚汁	20,000	5,300	14,700	2部
とうもろこし	60,000	27,700	32,300	2部
金魚すくい	30,000	12,000	18,000	2部
わたがし	10,000	700	9,300	2部
くじ(おもちゃ)	25,000	6,900	18,100	2部
和菓子	10,000	0	10,000	2部
おにぎり	10,000	0	10,000	2部
ケーキ	10,000	0	10,000	2部
清掃サービス	0	2,000	-2,000	
場内整理	0	0	0	
本社	0	10,000	-10,000	
合計	1,024,300	542,869	481,431	
給与割合			85%	利潤に対する給与と配当の割合は変更
配当割合			15%	する場合があります。
発行予定株数	1,206	120		(仕入計画)÷500円+予備発行株120株
社員給与総額	409,216			利潤予定合計×給与割合
株配当金総額	72,215			利潤予定合計×配当割合
平均給与	1,684			社員給与総額÷社員数
1株あたりの配当	60			配当金総額÷発行予定株数

*2部とは、一般業者の販売を示す。

総合

3 中学校における実践事例

2. 金融教育の実践事例集

総合

資料 No.2 「収支計画書」

株式会社黒潮
平成17年度 収支計画書

収支計画

収入総額 1,749,167円
 研究補助金 60,000円
 各店舗売上合計 1,689,167円
 支出総額 1,050,000円

内訳

	収入			支出			利潤	
	予約	当日	合計	研究費	材料費	合計		
1組	86,940	150,000	236,940	10,000	80,000	90,000	146,940	
2組	65,100	100,000	165,100	10,000	80,000	90,000	75,100	
3組	57,200	100,000	157,200	10,000	80,000	90,000	67,200	
4組	30,880	100,000	130,880	10,000	80,000	90,000	40,880	
5組	31,000	100,000	131,000	10,000	80,000	90,000	41,000	
6組	18,200	80,000	98,200	10,000	80,000	90,000	8,200	
7組	38,000	100,000	138,000	10,000	80,000	90,000	48,000	
2部	豚汁	0	30,000	0	10,000	10,000	20,000	
	とうもろこし	0	30,000	0	10,000	10,000	20,000	
	金魚・わたがし	0	20,000	20,000	0	10,000	10,000	
	くじ	0	30,000	30,000	0	10,000	20,000	
	和菓子	55,900	80,000	135,900	0	80,000	80,000	55,900
	おにぎり	49,400	80,000	129,400	0	50,000	50,000	79,400
	ケーキ	52,600	80,000	132,600	0	50,000	50,000	82,600
本部・警備・整理	123,947	0	123,947	0	200,000	200,000	▲ 76,053	

利潤

699,167円

*本部・警備・整理・・・「株式会社黒潮」の宣伝(看板、コマーシャルなど)・会場警備・場内整理などの費用
 *研究補助金・研究費(事前準備の費用)の補助金として学校から支給された金額
 *2部・・・一般業者の売店・販売

資料 No.3 「決算報告書」

株式会社黒潮
平成17年度 決算報告書

収支報告

収入総額 1,318,723円
 研究補助金 68,336円
 各店舗売上合計 1,250,387円
 支出総額 1,083,766円

内訳

	収入			支出			利潤	
	予約	当日	合計	研究費	材料費	合計		
1組	86,940	102,500	189,440	13,887	115,512	129,399	60,041	
2組	65,100	72,130	137,230	11,971	63,020	74,991	62,239	
3組	57,200	45,850	103,050	5,425	67,608	73,033	30,017	
4組	30,880	89,220	120,100	9,705	54,964	64,669	55,431	
5組	31,000	101,430	132,430	12,423	76,119	88,542	43,888	
6組	18,200	26,840	45,040	6,540	32,847	39,387	5,653	
7組	38,000	57,710	95,710	4,215	97,188	101,403	▲ 5,693	
2部	豚汁	0	11,800	2,000	9,273	11,273	527	
	とうもろこし	0	15,000	2,170	14,246	16,416	▲ 1,416	
	金魚・わたがし	0	10,000	10,000	0	15,540	15,540	▲ 5,540
	くじ	0	23,000	23,000	0	11,008	11,008	11,992
	和菓子	55,900	49,830	105,730	0	80,883	80,883	24,847
	おにぎり	49,400	17,500	66,900	0	49,450	49,450	17,450
	ケーキ	52,600	18,410	71,010	0	57,569	57,569	13,441
本部・警備・整理	123,947	0	123,947	0	270,203	270,203	▲ 146,256	

利潤

234,957円

配当と給与

配当

配当金総額 45,177円 (1円未満は切り下げて配当します)
 発行株数 1,221株
 一株あたりの配当 37円

給与

給与総額 188,800円
 社員数 236人
 給与 800円

残金 980円は学年費に繰り入れさせていただきます。

*本部・警備・整理・・・「株式会社黒潮」の宣伝(看板、コマーシャルなど)・会場警備・場内整理などの費用
 *研究補助金・研究費(事前準備の費用)の補助金として学校から支給された金額
 *2部・・・一般業者の売店・販売

入門ガイド

小学校における入門ガイド

中学校(社会)における入門ガイド

中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例

幼稚園における実践事例

小学校における実践事例

中学校における実践事例

3学年

高等学校における実践事例

資料

金融教育に関する年間指導計画の例

資料

入門ガイド

小学校における入門ガイド

中学校(社会)における入門ガイド

中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例

幼稚園における実践事例

小学校における実践事例

中学校における実践事例

3学年

高等学校における実践事例

資料

金融教育に関する年間指導計画の例

資料

146

147



資料
No.4

「事後学習レポート」における生徒の感想

(1) 将来設計能力について

- ①「お金」を稼ぐことの大切さを痛感させられた。会計も何度やってもあわなかったが、こんなに面倒だとは思わなかった。普段利用しているコンビニをはじめ、社会にいるお店の人はいつも大変な思いで仕事をしていると感じた。(3年男子)
- ②私は将来フランス料理のオーナーシェフになりたいと考えている。今回コロッケを410個作成し、お客様に好評で「おいしい」といわれたことが、とてもうれしかった。これからも自宅においておいしい料理に挑戦していきたい。(3年男子)

(2) 課題遂行力及び自己洞察力について

- ①実際にお店に修業に行き、何回も家で練習し、上手に焼けるよう(お好み焼き)努力した。(3年男子)
- ②いくつ売れたかのお金の集計作業をいかにスムーズにできるかを考え、何回もシミュレーションを試みた。本番では、会計は完璧だった。(3年女子)
- ③たくさんの仕事があったが、みんなに迷惑をかけないよう、期日を守るよう最大限の努力をした。このことによって、仕事がスムーズに進んだ。(3年女子)

(3) 対人調整能力について

- ①「株式会社黒潮」の学習でもそうですが、仲間と助け合って活動することの大切さを学びました。教科の授業においてもお互いに教え合ったりすることが、とても楽しくなってきました。(3年男子)
- ②出品の試作から、仕入れ・出店とクラスの仲間なしでは、この仕事の成功はなかったと思います。クラスの団結と絆の深まりこそ私たちの宝です。(3年女子)
- ③自分一人では乗り越えることができないことが、みんなと励まし合うことで乗り越えることができた。これからも“協力”を大切にしたい。(3年女子)

(4) プレゼンテーション能力について

- ①看板作成では、人の目を引くよう、明るい色を使ったり、人気のキャラクターを取り入れたりした。(3年男子)
- ②文字を大きくするなど、目立つことを意識して看板を作成した。(3年男子)
- ③体験したことで、みんなが知らないことや、一番心に残っていることを皆に伝えようと心がけた。(3年男子)

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校技術家庭における入門ガイド
実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における実践事例
中学校における実践事例
3年
高等学校における実践事例
資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料